

令和3年度 第回学校協議会 要点録

令和4年2月16日(水) 19:00~20:15

於：味生小学校 会議室

記録 清家 伸次(事務局：本校教頭)

校長挨拶：新型コロナウイルス新規感染者数は、高止まりの状態が続いている。

本校の研究発表会は、ICT機器を活用し、オンラインで2月7日に開催した。「密」を避け、「換気」を十分に行い、学習活動も制限される中ではあったが、開催できたことに喜びを感じている。

1. 令和3年度学校経営計画及び学校教育自己診断結果について

- ・「今年度の重点目標と具体的な教育活動」、「中期的な目標」の中から本校学校教育自己診断の児童・保護者・教職員アンケートの評価項目として設けているものを中心に取組みの進捗状況について校長から説明。

① 子どもの笑顔があふれ、いきいきと学ぶ姿のある学校

- ・教職員の人権教育の質の向上、人権感覚の醸成のため、教職員研修を行い、学級経営・児童理解をさらに進めた。

- ・質問項目21「味生小の四か条をはじめ学校のきまりを守っていますか」の数値は高い。(90.3%)よりよい味生小学校にするための取組みの一環として、児童会が味生小の四か条の一つ「廊下を歩こう」について、自分たちでできる事を考え、行動していた。

- ・全国学力・学習状況調査において、以下の課題がみられる。

算数の平均正答率について、全国平均との差が大きい。

読書に親しむ割合が低い。

家庭学習に取り組む割合が低い⇒放課後に、学校で宿題を行うことで対策

- ・地域と家庭とが一緒に課題解決について考え、意見交換する「地区懇談会」を是非取り組みたい

② チームで歩む学校

- ・教職員の時間外勤務の時間数を見ると、前年度より増えている月(6月)より、前年度より減っている月(10・1月)の方が多い。市教育委員会より派遣されたスクールサポーターの活用の成果と考える。

- ・問題行動等への対応を担任だけで行うのではなく、チームとして複数で対応することで、適切な対応を迅速に行うことができ、負担を分散させることができた。

- ・教職員アンケートの提出が依然100%にいかない。目的の明確化と結果の活用、実施の方法を工夫する。

③ 保護者・地域とともに子どもを育てる学校

- ・保護者への発信の工夫として、「学校だより」の電子化を試みている。

- ・安全・安心メールを活用した教育活動の周知、情報発信を行っている。

(意見交換)

校長：重点取組みに沿ってご意見をいただきたい。

委員：「子どもの笑顔があふれ、いきいきと学ぶ姿のある学校」を目指すうえで、大事にしていることは何か

- 校長：児童にとって、学校は困った事があれば助けてくれると思えるような安全・安心な場所である事。
わかることを増やすことで、もっと学びたい、もっとわかりたいという思いを持つことができる児童を育てる事。
- 委員：人権感覚の向上として、学校はできていると考えているが、15.7%の児童が辛い思いをしているのではないかと考えるが、校長としてどう考えるか。
- 校長：教職員の人権感覚の回答として非常に高い数値を示しているが、本当にそうなのか、伝わっているのかをしっかりと見極め、言葉だけではなく、些細な行動やサインを見逃さず、気持ちに寄り添った指導を徹底したい。
- 委員：問題行動をする児童は、何か困っているのではないか、悩んでいるのではないか、その子たちをどう集団の中で育てていくのが大切。その子がいなければ…、などと考えてしまうと、児童はそれを見抜く。それではもっと児童との距離が離れてしまう。
- 校長：児童のこと、その背景をよく知ることが大切。子どもの置かれている状況に思いをはせる事の出来る教職員は、子ども理解も深いと感じる。それを広げていくことが大切。
- 校長：情報発信について、前回意見をいただいたので、いろいろ学校からの発信を工夫した
- 委員：今はコロナの時代なので、難しい面もある。授業参観も制限されている中、先生の顔や声、日常の立ち振る舞いもわからない状況で、評価を求められるのは難しい。
しかし、5年程前は、児童が学校にイイイヤ行っていた。最近、元気ハツラツで学校へ行く。
下校時も、しっかりあいさつしてくれている。学校を楽しんでいると感じる。とても嬉しい。
- 校長：地域の方との接点として、PTA 活動も大切と考える。
- 委員：学校がPTA 活動を頑張るとするのは間違えているのかもしれないが、うまくいっている学校のことを参考にしてもどうか。
- 校長：PTA が自治会の方々とのつながりという点では、これまでそのような状況でしたか。
- 委員：地域行事の実行委員会でのつながりで話していることが、とても大切だったと今は感じる。
コロナで行事が全てできない状況なので、校長はそんなに悩まないで欲しい。
自治会としても、別の何かを考えていこうと話しているが、なかなか何も進めることができていない
- 委員：学校も何かを教えようとしてもなかなかできない状況。それなのに、評価、評価と言っても始まらない。今は非常時。あくまで児童主体、教職員主体であり、地域はお手伝い。校長が地域に気を遣う必要はない。何か起こったとしても、誰のせいでもない。一生懸命関わってくれることが大切。相談できる状況が大事。
- 委員：みんなで、チームとして対応することが大切。正解はない。一生懸命やることが大事。それは、児童にも伝わっていくもの。校長が中心となって、自分の教育方針を明確にし、発信していってほしい。
- 委員：そもそも、このアンケートには何か意味があるのか。アンケートするより、子どもとの時間を取った方がよい。評価は、ここを直したらもっと良くなる、ということにつなげないと意味がない。
子どもたちにも同じ、これをやればよい結果になるということを伝えることが大事。
点数や平均だけで見ってしまうと、しんどい思いをしている児童を見逃している気がする。
勤務時間も平均ではなく、45 時間以上時間外で働いているものがどれくらいいるかを見なければならぬ。
一人ひとりもしっかりと見る事を大切にしたい。
- 会長：学校は地域の願いに応えているのかというのなら、地域は学校の思いに応えているのか、とも思う。

数字は、あくまで補助的な意味で考えてくれればいい。

委員：ある熱血教師のドラマがある。なぜ人気があるのかを考えると、心があるかどうかだと思う。

数字には心がない。数字の後ろにあるものを見なければいけない。

先生と児童の関係性を見るためのもの。数字はその指標と考えればよい。

先生たちの助けになればこそ批判ばかりになってはいけない。

1年・2年の評価で右往左往しているのは間違っている。先生が委縮してしまっている。

委員：数字を利用して、教職員の支援になればいいと思う。

国語でうまくいかなかったとしても、算数では輝いている。そんな見方をしたい。

会長：ところで、バレンタインデーで、チョコを持ってくるような事はあるのか

校長：学校では持ってきてはいけないと指導している。

委員：寂しい時代になった。その様なコミュニケーションもとれないのか。

委員：許されないことが増えている。何か、「ゆとり」というものができてよいのではないか。

バレンタインデーが「ゆとり」とも言えないが、指示しなければいけない事は指示するが、指示以外のことを自分で考えることも大切。

校長：児童と保護者と教職員に同じ内容の質問をして、感じ方の違いから多面的なアプローチをすることが大事というご意見を受けて、教頭から報告いたします。

教頭：

	児童	保護者	教職員
1	学校へ行くのが楽しいですか …84.3%	お子さんは、毎日楽しく登校している …90.9%	児童は、楽しく学校生活を送っている …100%
2	授業は、わかりやすいですか …91.2%	お子さんは、授業が楽しく、わかりやすいと言っている …75.6%	自分は、児童がわかったと実感できる授業を行えるよう工夫・改善に努めている …100%
3	学校で相談できる先生がいますか …85.7%	学校は、お子さんのことについてよく相談に応じてくれる …87.2%	自分は、児童理解にカウンセリングマインドをもって指導できている …100%
4	命の大切さや集団生活のルールについて、学んだことがありますか …97.2%	学校は命を大切にす心や集団生活のルールを守る態度を育てようとしている …82.9%	自分は、常に人権感覚を磨き、人権尊重の立場に立った指導を行っている …90.0%

教頭：『質問1～3』に関しては、教職員が考えているほど、児童や保護者にとって効果が実感できていないと思われる。児童理解や寄り添い方などを振り返り、その場面のみ様子で判断し、本質的な悩みや困っている事の解決につながっているかを見極め、根本の解決に向かって対応していく必要があると考える。

人権感覚に関する『質問4』では、児童は高い割合だが、教職員も保護者も低い割合。これは、児童が思っている以上に、周りから見ればまだまだそうとは感じる事ができないという部分だと

思われる。学校での指導と児童の行動、周りの人への影響をきちんと考え、行動できる様に指導します。

委員：人権感覚に関しては、児童は学んだことは覚えているが、身に付いていない、実践できていないという見方もできる、

校長：相手のことをどう考えるかが大事。地域の方からも、言葉遣いや態度に関してご意見をいただく。注意しても直らない、言うことを聞かない。そういう態度をとらない児童を育てることが地域の信頼を得ることになる。

委員：学校では6時間程度しか過ごさない。家庭や地域が頑張らないといけない。

ハッキリした理由がないのに反抗してくる子どももいる。全部学校の責任にはできない。これは家庭の責任。学校に押し付けるのは間違い。

校長：月に1回、中学校区の校長間で、情報交換をしている。

中学校に向けてどんな児童を育てるのかなど、どのように児童を育てるのかを学校がしっかり思いを持つことが大切。

委員：中学生になっても、その後卒業してもずっと6年生の担任の事を話している。

その先生のいうことだけは聞く。そういうつながりは、家庭としてもうれしいし、助かる。

委員：これだけ多くの大人がいたら、その子にとって、話ができる大人がいるはず。

だれかひとりでも話を聞いてくれる大人がいれば助けになる。

校長：掃除の時に、大人が毎日関わってくると、児童の反応がよく、素直になってくる様子も目の当たりにしている。そんな部分を学校も大切にしていきたい。

(その他)

校長：PTA活動については、個人情報の使用の同意と活動への参加の同意を取ることになった。

コロナの影響で活動が見えにくいこともあり、必要性を感じる事がなかなかできないという声もいただいた。

存続することの意義を再確認し、形を変えて存続させていこうと今年度のPTA役員の方々と進み始めている。

様々なご意見を聞きながら、臨時総会を開き、新しい組織へと変革していくつもり。

委員：時代によって変わってくるのも仕方がないが、子どもの教育をよくするためのものであり、形は変わっても、その心意気は変わってはいけない。

委員：行事前の会議が大変。成功事例からいい方法を集めて提案して欲しい。

委員：ICTを活用して効率よくできないか。

今、参加するメンバーでできる事を考え、今は小さくても、参加している人でゆっくり育てていくようなPTAにしていくことが大切と思う。

委員：校長は、そんな活動ができる人を見つけることが大切。長い時間で見ないとはいけない。

校長が同士を集めることが大切。

2. 今後の予定について

- ・ 第4回：令和4年3月 9日(水) 19:00～